「女性と財産」文献目録

——民俗学分野を中心に——

中込睦子

凡例

1 この文献目録は、一九八八年末までに刊行された「女性と財産」にかかわる文献の内、民俗学的分野の文献を中心に各テーマ別に配列したものである。それぞれのテーマの狙いについては冒頭に簡単なコメントを付し、その範囲内で関連諸分野の文献の中から主要なものを採録した。

2 配列は次の通り。

一 総論（歴史学（女性史）、社会学・女性学、文化人類学）

二 家族と私財（私財一般、事例報告）

三 相続継承と持参財（女性の財産相続、持参財、女紋、「並行婚」）

四 主婦権と家計管理（主婦の権限、食糧・衣類などの管理、納戸と倉、センタクガエリ、離婚と妻への財産分与）

五 働く女性（海女、販女、女工、妻の経済力）

3 本目録の作成にあたっては、野村育世氏・倉石あつ子氏及び、御茶ノ水女子大学女性文化研究センターにお世話になった。深謝の意を表したい。

一 総論（歴史学（女性史）、社会学、女性学、文化人類学）

女性と財産にかかわる総論で、日本史（女性史）・女性学・文化人類学など関連諸分野の文献のうち、各時代を通じた通史、特定の時代の女性と財産についての総論的記述、特定社会における女性の生活と財産に関する民族誌的記述、「財としての女性」に関する論文など、以下のどの項目にも入らない文献をあげた。

【歴史学（女性史）】

1 明石一紀　一九七七　「日本古代家族研究序説——社会人類学ノート」『歴史評論』三四七

2 飯沼賢司　一九八四　「『職』とイェの成立」『歴史学研究』五三四

3 ——　一九八二、八三　「中世イェ研究前進のための試論」『民衆史研究』二三、二四

4 石井良助　一九七二　『法制史論集』（中世婚姻法）創文社

5 石村みち子　一九六一　「地頭職相伝上に於ける女性の地位」『国学院雑誌』七六—七

6 江守五夫　一九八〇　「古代女性史に関する問題」『家族史研究』二集大月書店

7 加藤桂子　一九六一　「鎌倉時代の婦人財産権」『史論』三

8 岸本光子　一九八六　「鎌倉期在地領主層における族的結合の構造」『中央史学』九

9 五味文彦　一九八二　「女性所領と家」女性史総合研究会編『日本女性史』二　東京大学出版会

10 佐藤進一　一九八三　『日本の中世国家』岩波書店

11 鈴木国弘　一九八〇　『在地領主制』雄山閣

12 ——　一九八一　「中世の親族と『イェ』」『歴史評論』三七一

13 関口裕子　一九七六　「日本古代の婚姻形態について」『歴史評論』三一一

14 ——　一九七八　「日本古代家族の規定的血縁紐帯について」『古代史論叢』中

15 ——　一九七九　「日本古代の豪貴族層における家族の特質について(上)」『原始古代社会研究』五

16 ――― 一九八二 「日本古代の家族形態と女性の地位」『家族史研究』二 大月書店
17 ――― 一九八二 「日本古代の家族形態の特質について」『お茶の水女子大学女性文化資料館報』三
18 ――― 一九八三 「家父長制家族の未成立と日本古代社会の特質について」『日本史研究』二四七
19 高群逸枝 一九六三 『日本婚姻史』（高群逸枝全集 第六巻 理論社 一九七七）
20 ――― 一九五三 『招婿婚の研究』（高群逸枝全集 第二、三巻 理論社 一九七七）
21 武田佐知子 一九七八 「子女の帰属に関する一試論――大宝二年籍を中心として」『史観』九八
22 中田 薫 一九二六 『法制史論集』一（親族法と相続法）岩波書店
23 西村汎子 一九八二 「古代末期における女性の相続権」 女性史総合研究会（編）『日本女性史』一 東京大学出版会
24 義江明子 一九八二 「古代の氏と家について」『歴史と地理』三二二
25 ――― 一九八六 「家族論と氏研究――関口裕子氏の研究をめぐって」『日本古代の氏の構造』吉川弘文館
26 吉田 孝 一九八六 「ウヂとィヘ」『新編日本史研究入門』 東京大学出版会
27 ――― 一九八三 『律令国家と古代の社会』 岩波書店
28 脇田晴子・林玲子・永原和子 一九八七 『日本女性史』 吉川弘文館

【女性学（主婦論）】

1 岩男寿美子・原ひろ子編 一九七九 『女性学ことはじめ』 講談社現代新書
2 上野千鶴子 一九八五 『資本制と家事労働』 海鳴社
3 上野千鶴子（編） 一九八二 『主婦論争を読む』 Ⅰ、Ⅱ 勁草書房
4 神奈川県地域婦人団体連絡協議会 一九六一 『主婦のくらしの記録』 神奈川県教員委員会
5 国際女性学会編 一九八〇 『現代日本の主婦』 日本放送出版協会
6 国民生活研究所 一九六五 『主婦の生活構造 都市と農村のレポート』 国民生活研究所
7 生活科学調査会（編） 一九六一 『増補改訂主婦とはなにか――家事労働と婦人の意識――』 ドメス出版
8 武田京子 一九八一 『主婦からの自立』 汐文社
9 永丘智郎 一九五七 『日本の主婦』 三一書房
10 中山 安 一九五七 『主婦の生活実態』 山本書店
11 藤井治枝 一九八〇 『家庭と女性』 現代婦人問題研究会
12 毎日新聞社神戸支局（編） 一九七七 『都市と主婦たち』 毎日新聞社

【文化人類学（女性と財産・女子財・女性と交換）】

1 アドナー、E他（山崎カヲル監訳） 一九八七 『男が文化で女は自然か？』 晶文社
2 綾部恒雄 一九八二 『女の文化人類学――世界の女性はどう生きているか』 弘文堂
3 上田富士子 一九七五 「ケニヤ・カンバ族における既婚女性の社会的地位と役割」『民族学研究』四〇―三
4 牛島 巌 一九八六 『ヤップ島の社会と交換』 弘文堂
5 小野明子 一九七五 「未開社会における女性の地位」 大林太良編『母権制の謎』（世界女性史 二 未開社会の女）評論社
6 ギアツ、ヒルドレッド（戸ケ谷修・大鐘武訳） 一九八〇 『ジャワの家族』 みすず書房
7 北原真智子 一九六〇 「神話・世界観と社会構造」 石田英一郎・泉靖一・宮城音弥編 『講座現代文化人類学』 三巻（人間の社会Ⅱ） 中山書店
8 成田弘成 一九八四 「ニューギニア高地における交換と女性」 牛島巌・松沢員子編 『女性の人類学』（現代の人類学五）至文堂

9 バール、ファン（田中真砂子・中川敏訳）　一九八〇　『互酬性と女性の位置』　弘文堂
10 馬淵東一　一九六八　「オナリ神をめぐる類比と対比」『日本民族と南方文化――金関博士古稀記念論文集』　平凡社　（『馬淵東一著作集』三　社会思想社　一九七四）
11 ――――　一九八〇　「オナリ神研究をめぐる回顧と展望」『成城大学民俗学研究所紀要』四
12 山本真鳥　一九八四　「トロブリアンドにおける女と交換システム――A、ワイナーの研究をめぐって」牛島巌・松沢員子編『女性の人類学』（現代の人類学五）至文堂
13 李　光奎（服部民夫訳）　一九七八　『韓国家族の構造分析』国書刊行会
14 レヴィ＝ストロース、クロード（馬淵東一・田島節夫監訳）　一九七七、七八　『親族の基本構造』上・下　番町書房

二　家族と私財（私財一般、事例報告）

家族全体の経営に関わる家産（＝家の「公」）に対して、個々の家族員が自らの必要に供するために確保している私財（＝家の中での「私」）の意味と実態を明らかにした文献。家産が家長によって管掌され家の存立の基礎となっているのに対して、家産から排除された存在としての女性（主婦・嫁・娘）や老人・子供（未成年）・次三男・奉公人などは、どの様な形で財を確保してきたのか。また「家制度」のなかでそれはどのような意味をもっていたのかがここでのテーマである。ただし、そこまで論じている文献は少なく、事例報告が多い。

【私財一般】

1 有賀喜左衛門　一九三三、一九三四　「名子の賦役」『社会経済史学』三―七、三―一〇　（有賀喜左衛門著作集Ⅷ　未来社　一九六九）
2 ――――　一九三八　『農村社会の研究――名子の賦役』（有賀喜左衛門著作集Ⅰ、Ⅱ　未来社　一九六六）
3 ――――　一九三九　『大家族制度と名子制度――南部二戸郡石神村における』『アチック・ミューゼアム彙報』四三　（有賀喜左衛門著作集Ⅲ　未来社　一九六七）
4 ――――　一九四三　『日本家族制度と小作制度』（有賀喜左衛門著作集ⅠⅡ　未来社　一九六六）
5 井之口章次　一九七二　「へそくり」『世界大百科事典』二七　平凡社
6 江馬三枝子　一九四三　『白川村の大家族』（『飛騨白川村』未来社　一九七五）
7 ――――　一九三七　「木谷のユー・シンガイその他」『ひだびと』五―一一（『飛騨白川村』未来社一九七五）
8 倉田一郎　一九五一　『経済と民間伝承』東海書房
9 小池基之　一九四八　『日本農業構造論』大化堂
10 瀬川清子　一九四六　「主婦権と私金」『民間伝承』一一―三
11 高取正男　一九七二　『民俗のこころ』朝日新聞社
12 竹内利美　一九五七　「ほまち」『日本社会民俗辞典』三　誠文堂新光社
13 ――――　一九六九　「家族の私財」『日本民俗文化財事典』第一法規
14 竹田　旦　一九五一　「へそくり」『民俗学辞典』東京堂
15 ――――　一九七二　「私財」『日本民俗事典』弘文堂
16 千葉徳爾　一九四九　「農村経済と民俗学」『民間伝承』一三―一
17 中込睦子　一九八六　「私財論ノート」『ふぃるど』一
18 橋詰延寿　一九三六　「女のヘソクリ」『民間伝承』二―一
19 早川孝太郎　一九三八　「農村社会における部落と家」　熊谷辰次郎編『村落社会の研究法』刀江書院（早川孝太郎全集　五、一九七七　未来社）
20 柳田国男　一九二七　「私生児を意味する方言」『民族』二―四　（定本柳田国男集　一五、一九六九）
21 ――――　一九二七　「農村家族制度と慣習」『農政講座』二　（定本柳田国男集一五、一九六九）

22 ――― 一九三一 「厄介及び居候」『社会経済史学』一―二 後
『家閑談』所収（定本柳田国男集 一五、一九六九）
23 ――― 一九四〇 「大家族と小家族」『婦人公論』二五―五 後
『家閑談』所収（定本柳田国男集 一五、一九六九）
24 ――― 一九四三 『族制語彙』（国書刊行会 一九七五）
25 ――― 一九一六 「郷土研究・方言欄」『郷土研究』四―一（定本
柳田国男集 三〇、一九七〇）
26 山口常助 一九四二 「中世のほまち田」『ひだびと』一〇―六

【事例報告】

1 天野 武 一九七一 「能登における嫁の生活（四）――伝承資料を中
心に」『西郊民俗』五五
2 井田安雄 一九六六 「ホマヲ田のこと」『群馬文化』八七
3 ――― 一九六七 「群馬県下における家族の私財について」『日本
民俗学会報』五三
4 大島建彦 一九六一 「佐渡の民俗」『人類科学』一三
5 大間知篤三 一九三六 「隠居の資料」『民間伝承』一―一二（大間
知篤三著作集一、一九七五）
6 ――― 一九五九 「白河市周辺の家慣行」『民間伝承』二三―六
（大間知篤三著作集 一、一九七五）
7 群馬県 一九八四 『群馬県史資料編』二五（民俗三）
8 小林 存 一九四四 「マキのことなど」『民間伝承』一〇―六
9 田中喜多美 一九三〇 「機織る里の春の情景と女の立場」『民俗学』
二
10 能田多代子 一九五三 「北の養蚕と女たち――青森県五戸町地方」
『日本民俗学』一―二（能田多代子著作集 津軽書房 一九六七）
11 早川孝太郎 一九三六 「村松家作物覚帳」（早川孝太郎全集七、未来
社 一九七三）
12 宮本常一 一九四三 『家郷の訓』（宮本常一著作集六 未来社 一九
六七）
13 ――― 一九六〇 『忘れられた日本人』 未来社（宮本常一著作集
一〇 未来社 一九七一）
14 ――― 一九六一 『庶民の発見』 未来社
15 山口弥一郎 一九四四 「北上の谷の家」『民間伝承』一〇―六
16 渡辺行一 一九四四 「族制語彙」『民間伝承』一〇―六

三 相続継承と持参財（女性の財産相続、持参財、女紋、（並行帰属））

女性が相続継承する財産・地位の内容とその方法に関する文献。氏族や家族の財産に対する女性の財産権がここでのテーマである。しかし古代・中世を別にすれば民俗学で確認できる範囲では、日本社会ではたとえ均分相続といっても女性は排除される傾向が強い。そこで嫁入りの持参財（なかでも不動産を持参する場合）をこの中に含めた。持参財に関しては、明玄書房の地方別『祝事』シリーズ（特に青森・新潟・福井・長野・静岡・愛知・群馬・和歌山・滋賀・大阪・香川・愛媛・大分・佐賀・鹿児島の各県）に事例があげられているので参照されたい。また女性から女性へ（母から娘へ）継承されるものの例として、「女紋」と複檀家制（いわゆる「半檀家」）における「並行帰属」（娘は母に息子は父に）をあげた。ただし「姉家督」については、女性自身に財産権が与えられるわけではないのでここでは省いた。

【女性の財産相続、持参財】

1 相川町 一九八六 『相川の民俗』Ⅰ（佐渡相川の歴史 資料集八）
2 有地 亨 一九八一 「現今の相続の機能の変化とその考え方の再検
討」『家族史研究』三 大月書店
3 伊波普猷 一九七三 『をなり神の島』平凡社
4 大口勇次郎 一九八〇 「近世農村における女性相続人――武州下丸子
村の事例」『御茶の水女子大学女性文化資料館報』一

5 ――― 一九八二 「近世後期における農村家族の形態―女性相続人を中心に―」女性史総合研究会編『日本女性史』三 東京大学出版会
6 大竹秀男 一九七七 『「家」と女性の歴史』 弘文堂
7 大間知篤三 一九三七 「日本結婚風俗史」『家族制度全集史論篇』I 河出書房（大間知篤三著作集 二、一九七五）
8 ――― 一九四九 「海村の婚姻」柳田国男編『海村生活の研究』日本民俗学会（大間知篤三著作集 三、一九七六）
9 ――― 一九五〇 「足入れ婚とその周辺」『民族学研究』一 （大間知篤三著作集 二、一九七五）
10 ――― 一九五一 『常陸高岡村民俗誌』刀江書院（大間知篤三著作集 三、一九七六）
11 ――― 一九六〇 「伊豆大島の婚姻と女性」『民間伝承』二四―一 大間知篤三著作集 二、一九七五）
12 岡田章雄 一九三二 「中世武家社会に於ける女性の経済的地位」上・下 『歴史地理』 六〇―三、四
13 片倉比佐子 一九八六 「江戸町方における相続」 近世女性史研究会編『論集近世女性史』 吉川弘文館
14 蒲生正男 一九七八 『日本人の生活構造序説』 べりかん社
15 蒲生・坪井・村武 一九七五 『伊豆諸島――世代・祭祀・村落』 未来社
16 五味文彦 一九八四 「女院と女房・侍」『院政期社会の研究』山川出版
17 竹田 旦 一九七〇 『「家」をめぐる民俗研究』 弘文堂
18 田中丸勝彦 一九八七 「モノの象徴性――壱岐のミノフロシキ」『日本民俗学』一七一
19 農林省農村経済局統計調査部 一九五四 『農村の婚礼と葬儀』 農民教育協会
20 野口武徳 一九六二 「池間島における婚姻」『日本民俗学会報』二四
21 早川孝太郎 一九二五 『羽後飛島図誌』 （日本民俗誌体系・北陸 一九七四）
22 服藤早苗 一九八〇 「平安時代の相続について――とくに女子相続権を中心として」『家族史研究』二 大月書店
23 ――― 一九八一 「平安時代の女性財産権――特に相続財産を中心として」『御茶の水女子大学女性文化資料館報』二
24 牧田りゑ子 一九八六 「近世京都における女性の家産所有」 近世女性史研究会編 『論集近世女性史』 吉川弘文館
25 馬淵東一 一九六四 「姉妹の霊的優越」『琉球の文化と社会』（馬淵東一著作集三） 社会思想社 一九七四
26 宮本義己 一九七五 「武家女性の資産相続――毛利氏領国の場合」『国学院雑誌』七六―七
27 森瀬 貞 一九七二 「壱岐のヨメイリフロシキについて」『日本民俗学』七九
28 柳田国男 一九二九 「聟入考」（定本柳田国男集 一五、一九六九）
29 ――― 一九二五 『妹の力』（定本柳田国男集 九、一九六九）
30 ――― 一九五一 『北小浦民俗誌』（日本民俗誌体系・北陸 一九七四）
31 柳田国男・大間知篤三 一九三七 『婚姻習俗語彙』（国書刊行会 一九七五）
32 義江彰夫 一九六七 「摂関家領の相続研究序説」『史学雑誌』七六―四
33 脇田 修 一九八二 「幕藩体制と女性」 女性史総合研究会編『日本女性史』三 東京大学出版会

【女紋】

1 岩井宏実 「女紋」『PR大阪』
2 近藤雅樹 一九八四 「女紋のこと」『あるく・みる・きく』二一四 日本観光文化研究所
3 ――― 一九八六 「女紋―母が娘に伝える紋章―」『近畿民俗』一

○七
4 ―― 一九八六 「母系の紋章」『日本民俗学』一六三
5 竹田聽洲 一九五三 「嫁の荷物」『民間伝承』一七―六、七
6 沼田頼輔 一九二六 『日本紋章学』明治書院(新人物往来社 一九六八)
7 枚岡市 史編纂委員会(編) 一九六五 『枚岡市史』第二巻(別編)
8 平山敏治郎 一九八一 「女の紋」『民俗学の窓』 学生社
9 松阪市 一九八一 『松阪市史』第一〇巻(史料編・民俗)
10 宮本又次 一九五九 『大阪町人論』(宮本又次著作集八 講談社 一九七七)
11 向山雅重 一九八四 「紋返し」『ふるさとのかたりべ』一 飯伊民俗の会

【男女並行婦属】

1 桜田勝徳 一九五四 「半檀家に関連して」『民間伝承』一八―一
2 杉本尚雄 一九五四 「男女別墓制及び半檀家について」『日本民俗学』一―四
3 野口武徳 一九六六 「複檀家と夫婦別・親子別墓制――日本の親族研究への一視角」『成城文芸』四四
4 福田アジオ 一九七六 「近世寺檀制度の成立と複檀家」『社会伝承研究』V
5 ―― 一九八六 「民俗としての親子――男子は父親に、女子は母親に」 端信行編『日本人の人生設計』 ドメス出版
6 ―― 一九八八 「寺檀関係と祖先祭祀」 石川利夫他編『生者と死者――祖先祭祀』 三省堂
7 村武精一 一九七〇 「日琉祖先祭祀からみた系譜関係の塑形性」論文集刊行委員会編『民族学からみた日本』 河出書房新社(『家族の社会人類学』弘文堂 一九七三)
8 最上孝敬 一九五三 「男女別墓制ならびに半檀家のこと」 『日本民俗学』一―二
9 ―― 一九六七 「半檀家制について」『日本民俗学会報』五〇

四 主婦権と家計管理(主婦の権限、食料・衣類等の管理、納戸と倉、センタクガエリ)

女性が家庭内で管理・掌握する家計や財産の内容に関する文献。民俗学ではこの分野は「主婦権」という名称で一括され、主婦という地位のもつ経済的側面と宗教的側面とが結び付けられて論じられてきた。家計の経済的側面に焦点をあてて論じた文献は皆無なので、主婦の権限とされる食料・衣類の分配・管理、主婦の管理する「場」としての納戸・倉、主婦権譲渡以前の嫁の里帰りと衣類調製(いわゆるセンタクガエリ)などもふくめてかなり広くとっている。最後のセンタクガエリは二の私財とも重なる内容であるが、あえてこちらに含めた。なお近年の「主婦論争」の文献にも主婦の家事労働の性質をめぐる議論などがあり、離婚と妻への財産分与の問題もここに含めるべきであろう(ただし民俗学の文献は皆無)。

【主婦の権限】

1 五十嵐誠毅 一九七三 「『柳田学』と『女性』の位置――〈家=常民〉概念の創出過程をも遡って」『群馬大学教育学部研究紀要』二二(『柳田国男研究資料集成』一五)
2 上野和男 一九八二 「女性・主婦・家族――『家閑談』『婚姻の話』その他」『国文学』二七―一
3 江馬三枝子 一九四二 『飛騨の女達』 三国書房(『飛騨白川村』未来社 一九七五)
4 ―― 一九五二 「山村の女の労働と位置」『地方史研究』五
5 ―― 一九五三 「山村の女の働き」『日本民俗学』一―一
6 江守五夫 一九八六 「家と家族」『日本民俗文化大系』一二 小学館
7 大藤ゆき 一九八五 「民俗における母親像」『日本民俗文化大系』一 ○ 小学館

8 ――― 一九八六 「家と男性」『女性と経験』一一
9 加藤勝子 一九五七 「農村に於ける婦人の労働」『女性と経験』五、六
10 鎌田久子 一九五二 「娘から嫁へ――新島の嫁の働きについて」『民間伝承』一六―三
11 ――― 一九八〇 『女の庶民史』青蛾書房
12 上子武次 一九七九 『家族役割の研究』 ミネルヴァ書房
13 唐川明紀 一九五九 「『ホグセ』と主婦権」『高志路』一八三
14 紀志津子 一九五四 「『親方の財布』と『かかの財布』」『日本民俗学』一―四
15 菊池 勇 一九四四 「小山田の家」『民間伝承』一〇―六
16 熊谷元一 一九五四 『村の婦人生活』 新評論社
17 倉石あつ子 一九八六 「主婦権を考える」『女性と経験』一一
18 ――― 一九八八 「資料 柳田国男の主婦観――主婦権再考のために」『長野県民俗の会会報』一一
19 ――― 一九八九 「柳田国男の主婦論」『信濃』四一―六
20 郷田洋文 一九五四 「杓子渡し前後」『民間伝承』一八―一
21 ――― 一九五六 「嫁入り」『女性と経験』一―四
22 小山 隆 一九五八 「戸主権と主婦権」『郷土研究講座』三 角川書店
23 小山 隆(編) 一九六二 『現代日本の女性――その社会的地位』国土社
24 ――― (編) 一九六七 『現代家族の役割構造――夫婦・親子の期待と現実』培風館
25 今和次郎 一九七一 「生活学」『今和次郎集』五 ドメス出版
26 ――― 一九七一 「家政学」『今和次郎集』六 ドメス出版
27 今野峰子 一九七二 「結婚と嫁の生活――宮城県伊具地方」(東北民俗資料集二)
28 佐久間明美・橋本やす子 一九七一 「婚姻と嫁――宮城県宮城、名取黒川、遠田地方」(東北民俗資料集 一)
29 佐々木喜善 一九二六 「へら渡しの式」『民俗』一―六
30 瀬川清子 一九四六 「家政を見なほす日」 女性民俗学研究会編『女の本――若き友におくる民俗学』朝日新聞社
31 ――― 一九四八 『きもの』 六人社
32 ――― 一九五一 「婦人の地位(婚姻)」『人文』一―一
33 ――― 一九五六 『日本人の衣食住』(日本の民俗 二)河出書房
34 ――― 一九五七 「主婦権」『婚姻覚書』 講談社
35 ――― 一九六二 『女のはたらき――衣生活の歴史』 未来社
36 ――― 一九六一 『しきたりのなかの女』 三彩社
37 ――― 一九六六 『食生活の歴史』 講談社
38 ――― 一九七〇 『村の女たち』 未来社
39 ――― 一九七九 「日本の主婦の百年」 岩男寿美子・原ひろ子編『女性学ことはじめ』 講談社
40 高取正男 一九八二 「女の民俗誌」『高取正男著作集』V(女の歳時記) 法蔵館
41 鷹野一弥 一九七五 「しゃもじ渡しと庶民の食生活」『民間伝承』三九―三
42 戸川安章 一九六六 「山形県庄内地方における女性の地位」『日本民俗学』四三
43 土橋里木 一九五四 「山村女性のはたらき(一)(二)」『民間伝承』一八―一、二、四
44 長島淳子 一九八六 「幕末農村女性の行動の自由と家事労働――武州橘樹郡生麦村『関口日記』を素材として」 近世女性史研究会編『論集近世女性史』 吉川弘文館
45 中条園子 一九七四 「結婚と嫁」(東北民俗資料集 三)
46 中村吉治 一九八二 「積残しの宿題――家と主婦」『家族史研究』三 大月書店
47 中山徳太郎 一九四一 「杓子渡し――能田女史の後について」『旅と

伝説』一四―七
48 南島研究編集部　一九六五　「主婦権――久米島」『南島研究』三
49 野口武徳　一九七四　「嫁姑関係」『講座家族』二　弘文堂
50 能田多代子　一九四〇、四一　「嫁入りから篭渡しまで㈠㈡㈢」『旅と伝説』　一三―六、七　一四―三
51 ――　一九四三　『村の女性』　三国書房
52 野村俊夫　一九四〇　「一家の嫁」『ひだびと』八―三
53 箱山貴太郎　一九五五　「主婦権の移譲をめぐって」『信濃』七―一一
54 端　信行　一九八四　「夫と妻のサイフ」『暮しの文化人類学』　PHP研究所
55 服藤早苗　一九八五　「摂関家における受領の家と家族形態――三河守源経相の場合」『日本歴史』四四七
56 富士谷あつ子（編）　一九八六　『女たちの自分史――生きていま女が語る』　読売新聞社
57 丸岡秀子（監修）　一九八六　『変貌する農村と婦人』　家の光協会
58 目黒依子　一九八四　『主婦ブルース』　筑摩書店
59 ――　一九八七　『個人化する家族』　勁草書房
60 向山雅重　一九六八　『信濃民俗記』　慶友社
61 ――　一九五七　「親族七日――信州伊那地方の事例」『女性と経験』一―五、六
62 もろさわようこ（編）　一九七八　『女の一生』（ドキュメント女の百年　一）平凡社
63 柳田国男　一九三九　『木綿以前の事』創元社（定本柳田国男集　一四　一九六九）
64 ――　一九四一　「女性生活史」㈠～㈣　『婦人公論』二六―一～九（定本柳田国男集　三〇　一九七〇）
65 ――　一九四六　『毎日の言葉』創元社（定本柳田国男集　一九　一九六九）
66 ――　一九四六　『家閑談』鎌倉書房（定本柳田国男集　一五　一九六九）
67 ――　一九四八　『婚姻の話』岩波書店（定本柳田国男集　一五　一九六九）
68 ――　一九五七　「家刀自の話」『女性と経験』五、六合併号
69 柳田国男・大間知篤三　一九三七　『婚姻習俗語彙』　民間伝承の会（国書刊行会）
70 柳田国男・山川菊栄　一九四〇　「対談　主婦の歴史」『新女苑』四―一一
71 義江明子　一九八九　「『刀自』考――首・刀自から家長・家室へ」『史叢』四二
72 和歌森太郎　一九七四　「家長権・主婦権の習俗」『講座家族』二　弘文堂
73 ――　一九六四　『女の一生』（日本の民俗　六）河出書房新社
74 渡辺織子　一九七一　「主婦権の譲渡」『日本民俗学』七六

【納戸と倉】

1 石塚尊俊　一九四三　「納戸の神」『民間伝承』九―五
2 ――　一九五四　「納戸神をめぐる問題」『日本民俗学』二―二
3 大藤ゆき　一九八〇　「女の子とナンド」『女性と経験』五
4 桜井徳太郎　一九五七　「ヨーミ・ミスギ・ケシネ――越後妻有郷における婚姻と主婦権」『女性と経験』二―二
5 白木小三郎　一九六六　「納戸考」『建築もののはじめ考』
6 坪井洋文　一九七六　「家の祭祀的構造(上)」『日本文化研究所紀要』三七
7 野村敬子　一九八五　「納戸の祝福伝承――昔話『大歳の火』をめぐって」『芸能』二七―八
8 ――　一九八六　「かぶらの花と黄金と――主婦の招福譚」『女性と経験』一一
9 宮田　登　一九八一　「家のフォークロア」『文化の現在』三　岩波書

10 店（『女の霊力と家の神』 人文書院 一九八三）
村武精一 一九八五 「家の中の女性原理」『日本民俗文化大系』一〇 小学館

【センタクガエリ】
1 井之口章次 一九六二 「氷見の聞書から」『西郊民俗』二一、二二
2 大島建彦 一九六二 「節礼とセンダク」『西郊民俗』二一、二二
3 大間知篤三 一九五三 「対馬のテボカラと嫁」『日本民俗学』 一—一 （大間知篤三著作集 二 一九七五）
4 ——— 一九五三 「オモテとヨマ——対馬の家の複世帯制」『金田一博士古稀記念 民俗・言語論叢』（大間知篤三著作集 一 一九七五）
5 ——— 一九五四 「対馬の隠居制」（大間知篤三著作集 一 一九七五）
6 小林一男 一九五六 「嫁取りとアイヤケ——若狭新庄日録」『日本民俗学』三—四
7 桜井徳太郎 一九七三 「婚姻後の習俗」『講座家族』三 弘文堂
8 佐藤光民 一九五六 「羽越国境地方の婚姻制——シュウトノツトメを中心として」『日本民俗学』三—四
9 清水昭俊 一九八七 「日本の家の内と外」『家・身体・社会』弘文堂
10 瀬川清子 一九五七 『婚姻覚書』講談社
11 土田英雄 一九六五 「嫁の定期的里帰り慣行に関する一考察」『大阪学芸大学紀要』A—一三
12 坪井洋文 一九六四 「南佐渡小木町琴浦の社会と習俗」 九学会連合編『佐渡——自然・文化・社会』 平凡社
13 ——— 一九八三 「日本海沿岸諸村における婚姻儀礼の類型性」『家族史研究』七 大月書店
14 中込睦子 一九八七 「若狭地方における嫁の『里帰り』と家族の構造」『史潮』新 二一
15 長谷川昭彦 一九六五 「嫁の長期里帰り慣行の社会的意義——小浜市国富地区を主として」 京都府立大学学術報告『人文』一七
16 ——— 一九七三 「嫁の里帰り慣行」姫岡勤・土田英雄・長谷川昭彦編『むらの家族』 ミネルヴァ書房
17 平山敏次郎 一九五〇 「ヒヲトル嫁」『加能民俗』四
18 村武精一・大胡欽一 一九六四 「小佐渡大川における家族・シンルイ・婚姻」 九学会連合（編）『佐渡——自然・文化・社会』平凡社
19 最上孝敬 一九六二 「嫁の里帰りの諸問題」『西郊民俗』二一、二二

【離婚と妻への財産分与】
1 天野 武 一九七四 「離婚の習俗」『講座家族』三 弘文堂

五 働く女性（女の稼ぎ、妻の経済力）

女性が家庭の外で独立に営む経済生活について論じた文献。現代社会ではこの部分の比重が大きいことは疑いない事実であり、その意味では現代の「共稼ぎ」やそのはしりである明治・大正期の「職業婦人」、「女工」なども含めるべきであるかもしれない。しかし、従来の民俗学では農漁村での海女稼ぎ・行商（販女）など、近代以前から存続している生業形態が主たる研究対象であるので、ここではそれを中心にひろってみた。また夫婦別産制の事例として著名な糸満漁民の文献も、妻の経済力の項目であげておいた。巫女・遊女・ゴゼなどについては今回は省いた。

【海女・販女・女工】
1 秋山健二郎・森秀人・山下竹史（編） 一九六〇 『行商人と露天商』（現代日本の底辺二） 三一書房
2 岩田準一 一九四〇 『志摩の蜑女』 アチック・ミューゼアム （島羽志摩文化研究会 一九七一）
3 岩田英彬 一九八四 『大原女』（近畿民俗叢書六） 現代創造社

4 上村角兵衛　一九七四　「志摩の海女」『郷土志摩』四七
5 江馬三枝子　一九三八　「オナゴの給料」『ひだびと』六―七
6 大島栄子　一九八二　「両大戦間の女子労働――紡績・製糸女工を中心に」女性史総合研究会編『日本女性史』五　東京大学出版会
7 岡田一郎　一九七二　『阿波のいただきさん』　徳島県海部郡由岐町教育委員会
8 加藤百合子　一九五〇　「女のはたらき」『民間伝承』一四―一二
9 金沢　治　一九七四　『徳島』（日本の民俗三六）　第一法規
10 金子　忠　一九六一　「粟島の婦人労働――島の人々の幸福のために」『民間伝承』二五―一
11 神埼宣武　一九七七　「旅あきない」『あるく・みる・きく』一二一
12 ――　一九八五　『峠をこえた魚』　福音館書店
13 北見俊夫　一九七〇　『市と行商の民俗』　岩崎美術社
14 斎藤長五郎　一九六九　『かかあ天下と上州女――上州嬶天下考』　高崎市婦人団体連合会
15 阪井敏郎　一九五八　「志摩半島における海女の地位について」『社会福祉評論』　一五
16 阪野　優　一九七五　「房総半島の海女漁村――御宿町岩和田の場合」『三重社会』　二〇
17 桜田勝徳　一九三四　『漁村民俗誌』　一般社
18 ――　一九四九　「背後農村との交渉」　柳田国男編　『海村生活の研究』日本民俗学会
19 柴田伊右衛門　一九五九　「塩売りと女魚売」『民間伝承』二三―四
20 島本彦次郎　一九六五　「生活の組織と海女の生活」　『愛知大学総合郷土研究所紀要』　特集号
21 女性民俗学研究会（編）　一九八六　『軌跡と変容――瀬川清子の足あとを追う』　女性民俗学研究会
22 菅野則子　一九八二　「農村女性の労働と生活」　女性史総合研究会編『日本女性史』三　東京大学出版会
23 瀬川清子　一九四〇　「漁村に関する覚書」『年報社会学』七
24 ――　一九四一　「イタダキの村（その一）（その二）」　『旅と伝説』一四―一、二
25 ――　一九四二　「石見の行商（上）（下）」『ひだびと』一〇―五、六
26 ――　一九四二　「魚売り聞書き」『ひだびと』一〇―一一
27 ――　一九四二　『海女記』　三国書房　（『十六島紀行海女記断片』　未来社）
28 ――　一九七六　一九四三　『販女――女性と商業』　三国書房　（一九七一　未来社）
29 ――　一九四六　「漁村生活と婦人」　中央水産業会（新漁村叢書二）
30 ――　一九四七　「漁村生活と婦人」『民間伝承』一一―六、七
31 ――　一九四九　「海村婦人の労働」　柳田国男編『海村生活の研究』日本民俗学会　（国書刊行会）
32 ――　一九五〇　「婦人の労働」『民間伝承』一四―一一
33 ――　一九五五　『海女』　古今書院　（一九七〇　未来社）
34 高取正男（編）　一九八二　『京女――そのなりわいの歴史』　中央公論社
35 武田　明　一九七八　『四国おんな聞書』　未来社
36 田中のよ　一九八三　『海女たちの四季――白間津・房総半島海浜のむらから』　新宿書房
37 ――　一九八五　『磯笛のむらから――房総海女のくらしの民俗誌』　現代書館
38 田中政行　一九八一　「能登・石崎の婦人行商人（カズキ）について」『加能民俗研究』九
39 長岡博男　一九三八　「いただき聞書――北陸地方の頭上運搬について」『ひだびと』六―三
40 長島淳子　一九八二　「近世女性の農業労働における位置」　『歴史評

論』三八三
41 長野ひろ子　一九八六　「近世後期女子労働の変遷と特質――常州下江戸村那珂家女子奉公人の分析を中心に」　近世女性史研究会編『論集近世女性史』　吉川弘文館
42 永原和子　一九八二　「良妻賢母主義教育における『家』と職業」　女性史総合研究会編『日本女性史』四　東京大学出版会
43 中村ひろ子　一九八〇　「販女」『講座日本の民俗』五　有精堂
44 名取堯之助　一九三八　『桂女資料』　大岡山書店
45 額田　年　一九六一　『海女――その生活とからだ』　鏡浦書房
46 野間吉夫　一九三八　「谷山ヨメジョ（魚売り女）聞書」『旅と伝説』一一―八
47 ――　一九五三　「筑前鐘崎の海女聞書」　『民間伝承』一七―八
48 林　玲子　一九八六　「京都町家女性の存在形態」　近世女性史研究会編『論集近世女性史』　吉川弘文館
49 服藤早苗　一九八二　「古代の女性労働」　女性史総合研究会編『日本女性史』一　東京大学出版会
50 北国新聞社（編）　一九七三　「加能の販女――もめんからちりめんへ行商女の文明開化」　『加能女人系』下　北国新聞社
51 松平富美　一九六二　「海女の生活について――伊豆白浜の場合」『家政学研究』九―二
52 マライーニ、F（牧野文子訳）　一九六四　『海女の島――舳倉島』未来社
53 三雲稲子　一九七五～七六　「曲の海女一～三」　『西日本文化』一一六、一一九、一二一
54 森崎和江　一九八一　『海路残照』　朝日新聞社
55 もろさわようこ（編）　一九七八　『女のはたらき』（ドキュメント女の百年　三）平凡社
56 溝上泰子　一九六七　『底辺十六年』（山陰文化シリーズ二四）　松江・今井書店
57 村上はつ　一九八二　「産業革命期の女子労働」　女性史総合研究会編『日本女性史』四　東京大学出版会
58 柳田国男　一九三一　「行商と農村」『農業経済研究』七―二（定本柳田国男集一六　一九六九）
59 脇田晴子　一九八二　「中世における性別役割分業と女性観」　女性史総合研究会編　『日本女性史』二　東京大学出版会
60 ――　一九八五　「中世女性の役割分担――勾当内侍・販女・勧進比丘尼」『歴史学研究』五四二

【妻の経済力】

1 奥野彦六郎　一九七七　『沖縄の人事法制史』　至言社
2 河上　肇　一九一一　「琉球糸満の個人主義的家族」『京都帝国大学法学会雑誌』六―九
3 河村只雄　一九三九　『南方文化の探求』
4 坂岡庸子　一九八七　「糸満漁民婦人の家族生活」　中楯興編著『日本における海洋民の総合研究　上　――糸満系漁民を中心として』九州大学出版会
5 野口武徳　一九六七　「沖縄糸満女性のワタクサー」『東京　立　学社会人類学研究会報』四
6 ――　一九六九　「沖縄糸満婦人の経済生活――とくにワタクサー（私財）について」『成城文芸』五六　（『漂海民の人類学』一九八七　弘文堂）